

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

|       |                       |
|-------|-----------------------|
| 施設所在地 | 江東区豊洲3-2-20 豊洲フロント106 |
| 施設名   | ミアヘルサ保育園ゆらりん豊洲フロント    |

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

「自然」、「野菜と果物」

〈テーマの設定理由〉

「自然」  
普段の保育の中で、年齢に問わず自然に関わる機会が多く、昆虫に興味を持っていたため設定した。  
「野菜と果物」  
子どもたちが好きで興味の強かった、野菜と果物についてより理解が深まるようにテーマを設定した。

2 活動スケジュール

「自然」  
・ 戸外活動で、草木の自然に触れ合いながら、興味を惹かれるものをピックアップする。  
子どもたちの発見や気づきを室内で表や写真などにして掲示しながらより興味を深めていく。  
・ 図鑑を設置し、昆虫の飼育方法や、種類、植物や生き物を自ら調べ、気づきや発見を楽しむ。  
・ 昆虫の飼育を実施。  
・ 秋の草木や虫を調べたり、木の実などを遊びの中に取り入れる。

「野菜と果物」  
3-5歳児クラス  
・ 畑の野菜を知り、秋に旬を迎える「さつまいも」に着目し、クッキングに繋がった後、収穫体験をした。（9-10月）  
・ 給食に提供される果物について興味を持ち、「さまざまな果物について知りたい」の声からクイズを実施。  
・ 観察後、色や形に着目し、色塗りや、種、感触、断面、色についてクイズをする。果物の味比べ（みかん、りんご、いちご）をし、3つの果物の中で、種の数や大きさの違い、種類の数などから、いちごに着目し、いちご狩り体験を実施。（1-3月）

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

「自然」  
・ 昆虫図鑑、昆虫飼育図鑑、虫かご、虫網、昆虫や生き物の餌類、昆虫コーナーのためのコーナーラック  
「野菜と果物」  
実物の果物（みかん、いちご（4種類）、りんご）、果物の育ちについての媒体2枚（土の上・木）・果物カード12枚、果物塗り絵（クレヨン、画用紙）、さつまいも・果物クイズ（パワーポイント）、果物シルエットクイズ（パワーポイント）

## 4 探究活動の実践

### 〈活動の内容〉

「自然」  
・ダンゴムシ、カマキリ、テントウムシ、カブトムシなどの生き物の飼育により、興味を深める。また、図鑑を利用し、自ら調べるなどして昆虫に詳しくなる。飼育などの経験から、戸外で見つけた自然を周りに共有している姿が見られたため、室内でも写真で掲示し、散歩マップを作り公園ごとに視覚的に分かりやすいようにした。  
・カタツムリの飼育から、卵の産卵や羽化などを通してお世話をするこの責任を持ち、お世話や掃除の習慣化。

「野菜と果物」  
実物を用意し、実際に種や色、匂いなど、気になる点を聞き、たくさん観察する機会を設け、最後に味について試食をしている。「果物って面白い」と気持ちが高い状態で、さつまいも堀りやいちご狩り体験に繋げ、花や芽に触れつつ、どのようにできているのかを確認し、楽しみながら学ぶ姿があった。

### 〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

「自然」  
戸外活動をしていく中で、まずは子どもたちの興味のあることに目を向けながら、飼育したり観察したりできる環境を作っている。どうやって飼育するのか、どんな虫なのかを自ら調べながら、気付いたことを友達と共有している姿が見られた。また、公園ごとにいる虫に違いがあり、散歩マップに見つけた虫を掲示することで、探索活動がより広がっていった。戸外で昆虫が少なくなってくるまで、引き続き興味を持つ姿が見られた。生き物を飼育することで、生命の誕生や命の大切さについても知り、責任をもってお世話する姿が見られた。子どもの興味がより広がっていくよう、戸外だけでなく、室内でもコーナーを設けていた。子どもと一緒に考え、調べながら関わっていった。

「野菜と果物」  
図鑑で調べつつ、わからない点は、保育者や調理員がヒントを伝え、子どもたち自身で気づきや発見ができるよう、さつまいもや果物の成り立ちの動画を見たり、実物を用意したりと、活動を子どもの声に合わせて変えるようにした。「これだ」と発見を喜びながら、友だちに教えたり、友だち同士で会話する場面が見られた。子どもたちだけで考える時間を作り、保育者はその様子を見守りながら、質問されたら答えるという関わりを大切にしている。



## 5 振り返り

### 〈振り返りによって得た先生の気づき〉

「自然」  
自然の中でも、子どもたちの興味のあることに目を向け、追及していけるように活動や環境を考えたことで、より興味を深められる機会になったり、自ら調べていく面白さにも気付いていく姿が見られた。様々な生き物、昆虫、木の実などに触れながら、都会で過ごしていく中でもたくさんの自然と関わることができ、子どもたちの発見によってさらに探索活動の幅を広げることが出来た。

「野菜と果物」  
「やってみたい」、「知りたい」に合わせた活動を考え実施することで、子どもの達成感や満足度も違うと感じている。日々の食育活動からも、『子どもの主体性』を大切に、子どもの「知りたい」をサポート出来る内容を今後も取り入れていきたいと改めて感じる事が出来た。